
掬り替わってゆく

四季 ワタリ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

掬り替わってゆく

【Nコード】

N1351C

【作者名】

四季 ワタリ

【あらすじ】

成長とともに、過去は少しずつ形を失ってゆく。

「ぼくは大きくなったらね、正義のヒーローになるんだ！」

彼は力強く、高らかに宣言した。一点のくもりもない翡翠色の瞳からは、若さ特有の未来へ心弾ませる思いが滲み出ている。

私は素晴らしい夢だと頷いてみせた。しかし、彼は私のことなど眼中にないようで、何かの変身のポーズ（私はそれが何なのかよく覚えていない）をとりながら話を続ける。

「悪い奴等をやっつけていくの。Mr・フレデリックやDr・ハーデスとか」

そうかい、と私は言った。頑張っしてほしいという意味を込めて、賛辞を送るかわりに拍手を彼に捧げた。

しかし、またもや彼は私の言葉を無視するかのようになり一人で燥ぎ出した。その様子は非常に楽しそうである。急に走り出したかとおもうとサツと立ち止まり、誰もいない宙に向かってキックを繰り返す。彼の憧れているヒーローの真似をしているのだらうと、私は推測した。（ところでこの時、私の右手に握られているものは非常に重たかった。）

一頻りの行動を終えたのか、気がつくや彼はこちらのほうへ戻ってきていた。そして、さらに語ってくれた。

「正義は悪に絶対に勝つんだ。正義は絶対に強いんだ」

そうだ、そのとおりだとも。私はそう叫んだ。これまでの人生の中で一番大きな雄叫びで、彼のその言葉を肯定した。（ところでこ

の時、私の体は全身汗まみれであった。)

彼は気にもせずに向こうのほうに走っていった。きっと呼ばれたのだろう。彼のいった先には一人の女性が立っていた。

華奢で凜としたたずまいの、髪は金髪で少しウェーブのかかった、一言でいえば美しい女性だった。(ところでこの時、私は涙が止めどなく溢れていた。)

その女性はどうかこちらを指差し、彼　かわいいひとり息子　に、何かの指示を与えたみたいだ。直後、彼は母のもとから駆け出して、一直線に向かってきた。

そして、息も絶え絶えに最後の言葉をテープに収めた。

「未来のぼく(カリック)へ。ぼくは正義のヒーローになっていきますか?」

部屋は昼だというのに薄暗く、よんだ空氣が流れていた。しかしそこでは場違いな笑い声が聞こえている。

「ハハハ。よくやったよ、カリック!」

「おいカリック。びびりすぎて、チビってんじゃないだろうな?」

上官の男達の声だった。どいつの笑い声も下衆で、醜くて、卑猥な響きを含んでいる。

私は動揺していた。自分が今、初めて行った行為に対してである。部屋の中は、特に私の目の前の壁は赤で染まった。元々のベージュの壁の色は見る影もない。

その赤の下には、やはり赤で染まった物体が倒れ込んでいた。血なまぐさい臭いが、少し離れた私のところまで届いている。彼は私

たちの国が攻撃をしている敵国の住民だった。

私の右手には重厚感のある黒い銃が握り締められていた。

「いつまで動揺してるんだ、カリック。ただ“虫”が死んだだけじゃないか」

「同情なんてしてやるな。こいつらは“敵”なのだからな」

そう言っつて私の肩をポンとたたくと、上官たちは部屋を離れていった。

はたして私は正義を実行したのだろうか？

はたしてこの国の住民は悪だったのだろうか？

はたして彼（幼き日の私）の言った正義と悪とは何だったのだろうか？

いまの私には分からない。私はただの馬鹿だ。

はつきりしていることはひとつ。体の中を駆け巡る後悔の念だけ。

私の頭の中では同じ映像が繰り返しながられている。

幼くて無垢な私が夢を語る映像が。彼の語った期待の言葉が。

ぼくは正義のヒーローになっていますか？

(後書き)

最後まで読んで下さって、ありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1351c/>

掬り替わってゆく

2010年10月9日02時26分発行